

**兵庫支部 NEWS H22年 2月号**北九州市立大学同窓会兵庫支部 編集発行人 名越英昭(Tel.078-792-6130)
ホームページ http://www.hi-net.zaq.ne.jp/kono メール hn75kb@ybb.ne.jp購読料 12回、1,500円(送料込)
購読のお申し込みは郵便振替
振替口座:00980-2-245822
口座名:北九州市立大学同窓会兵庫支部**吉本富雄氏御逝去**

兵庫支部会計幹事の吉本富雄氏(39米英)が1月26日御逝去された。

昨年10月に脳溢血で倒れ、その後加療中だったが、心筋梗塞の為、余りにも早い旅立ちとなられた。享年68歳。

吉本氏は、兵庫支部草創期より支部活動に参加され記録のある平成3年4月19日開催の第5回支部総会以来、ほとんど毎年支部総会に出席されており、昨年7月の支部総会が最後となった。

幹事として支部総会準備にあたり平成10年からは会計幹事として支部活動に貢献され平成12年に同窓会活動功労者表彰を受賞された。(昨年5月の役員会で、前列左端が吉本氏)



昨年5月の役員会が最後の役員会出席となった。

三金ゴルフには第7回(H9年春)に初参加し、ガンジゴと名付けられ、以来十数回の参加記録がある。

また歩こう会にはH13.03.10開催の第1回摩耶山登頂から参加し、その後も度々参加され、昨年5月例会で、奈良公園、春日大社、東大寺など一緒に歩いたのが最後となった。

(奈良公園を散策) 三金会もほとんど常連の様な形で出席されていた。囲碁の会にも時々顔を出され、碁盤に向かうこともあった。

多岐にわたり兵庫支部活動の行事に参画され活躍された吉本氏を失うのは、兵庫支部にとって大きな損失である。心からご冥福を祈ります。 合掌

1月27日午後7時から平安祭典西神会館での通夜には同窓生12名が参列し、ご冥福を祈った。

1月28日午前11時からの葬儀には同窓生2名が参列し、兵庫支部有志一同として供花を供え、野辺の送りをしました。(名越記)

**損害保険・医療保険・がん保険****の総合保険代理店****安心の発信基地****大村保険サービス**代表 大村 実良
(昭和33年商学部卒)652-0897
神戸市兵庫区駅南通3丁目4-1-302
TEL 078-671-7318 FAX 078-671-8316**兵庫支部月例会1月「三金会」**(大村、前原、名越、安徳、赤松、二宮、中村)
平成22年最初の「三金会」は、小正月といわれる1月15日(金)午後6時から定例会場の「本館牡丹園」において開催された。15日までは松の内でありお互いに「おめでとう」と新年の挨拶を交わして、雑談が始まった。

最初に大村支部長から、同窓会本部から送られてきた雑誌「ふくおか経済」12月号が出席者に回覧された。矢田学長の顔写真が表紙を飾り、インタビュー記事が11ページにわたり掲載されている。

「改革モデル『北の翼』が全国公立大学をけん引」「経営合理化など中計169項目の98%を前倒し達成」などの大見出しで、全国77校の公立大学で構成する公立大学協会で、昨年5月に初めて実施された投票制度で、会長に選任され就任したこと、大学の改革状況や生い立ちなどが語られ、掲載されている。

発行所は榊地域情報センター、
福岡市博多区博多駅東1-1-33
はかた近代ビル9F

Tel.092-474-4455, Fax 474-5108

E-mail:info@fukuoka-keizai.co.jp

URL:http://www.fukuoka-keizai.co.jp

続いて神戸新聞掲載記事が紹介され、幕末/明治に活躍した異色の政治家、大島圭介の生誕地を訪ねるハイキングで、赤松初夫氏(40米英)が町会議員を務める上郡町のイベントであることから、同氏支援の意を込めて参加することを検討することになった。

又、1月24日(日)に開催された関西支部の新年会に出席した大村・名越両氏から、その模様が報告された。

三金会出席者:

大村実良(33商) 名越英昭(37米英) 二宮慶治郎(38米英) 前原賢作(40商) 赤松初夫(40米英) 中村明人(41商) 安徳信義(44商) 合計7人

投稿川柳**守るのは 政治生命 優先か****銃令は フードの違い 飽と消え****愚案亭**

平成22年関西支部新年会 驚きのハーモニカ演奏—杉山剛太氏

平成22年1月24日(日)正午から、新大阪ワシントンホテルプラザに於いて、関西支部新年会が開催され、大村兵庫支部長とともに出席した。

出席総数24名

宇都龍彦幹事(45経済)が進行役となり、昨年の10月、関西支部総会で新支部長に就任した松尾祐嗣支部長(45経営)の挨拶があり、続いて新年会に相応しく大江一正幹事(46国文)の吟詠が、漢詩の内容説明を加えて、2曲披露された。



(松尾支部長)

長い間御無沙汰しているので声が出るかどうか自信がないような前置きがあったが、学生時代に吟詠部として鍛えた喉は、衰えては



いないようだ。乾杯は、茨木幹夫氏(34商、囲碁7段)のご発声で、懇親会が始まった。

和やかな雰囲気の中、懇親会は進み、(大江幹事の吟詠)



(和やかな雰囲気の中、懇親会会場)

本日のメインイベントともいうべきハーモニカ演奏の杉山剛太氏(34商)が紹介された。

杉山氏は兵庫支部会員であるが、関西支部の友人のたつての要望

で友情出演となった。

友人である茨木氏の説明によると、子供のころに、NHKのど自慢に出演し見事入賞を果たしたとか。現在は御近所の御老人などと一緒に演奏会を行ったりしている由。御持参のハーモニカは、C調、Cm調、Am調等々十数本がセットになってケースに収められており、まさにプロ並みだ。



2本、3本と持って上下させながら(杉山氏のハーモニカ)らの演奏で、「ユーモレスク」「さくら変奏曲」など数曲が披露された。

兵庫支部の会員にも是非御披露お願いしたいものと思った次第。

素晴らしいハーモニカ演奏に酔った後は、お待ちかねのカラオケ大会である。



(真鍋先輩)



(都留先輩)

トップバッターは真鍋廣近氏(34米英)だ。そして大村兵庫支部長(33商)も負けじと自慢ののどを披露し、関西支部囲碁同好会会長の都留猛氏(32米英)も1曲披露された。

カラオケの後はビンゴ(大村兵庫支部長)ゲームだ。会費とは別にビンゴカードを500円で購入して参加する。清水許宏幹事(46米英)が進行係でゲームを進める。



関西支部新年会 出席者全員

ビンゴの景品は全員に行き渡るように用意されていたようだ。

最後は、御堂隆輝前支部長(47経済)のリードで肩を組んで、輪になって、逍遥歌を合唱。

閉会の挨拶は、大西正直副支部長(39商)が謝辞を述べて、午後3時過ぎに終了した。

関西支部の

新年会に出席させて頂いたのは、今回が初めてであったが、いろいろと盛り沢山に趣向を凝らして、御堂前支部長から引き継いだ松尾新支部長と出口幹事長の意気込みが感ぜられる新年会であった。



(大西副支部長)

新年会を終わり、唄い足りない(?)都留・大村両

先輩の御供をして、神戸・新開地のカラオケスタジオ「ひばり」へと繰り出した。「ひばり」さんはテレビ出演のため東京へ行って来たばかりとか。

2月19日関西TVで放映予定だと知らされた。

途中から大村支部長夫人も合流し一緒にカラオケを楽しみ、我々3人は(都留先輩ノカラオケ)三宮へ向かい「ジェラシー」で、午後10時ごろまで頑張ったのです。(名越記)



(大村支部長)

「三金会」「囲碁の会」会場ご案内 本館牡丹園

神戸市中央区元町通1丁目11-20

電話 078-332-4588 FAX 078-392-3020

JR元町駅東口海側下車、南へ(大丸方面へ)徒歩1

「三金会」

毎月第三金曜日 午後6時～

会費:3,500円(男性)

2,000円(女性)

「囲碁の会」

毎月第三金曜日 午後3時～

参加費:無料、ドリンク/500円



世界遺産熊野古道ウォーク

第10回清姫の里から高原霧の里まで、約6km

1月13日(水)第10回目の熊野古道ウォークに参加した。今回は「清姫の墓」からのスタートである。

いつもの通り、名谷から、谷上、神戸駅で集客して湾岸線から阪和線経由して、「清姫の墓」に到着したのは午前11時過ぎ。語り部さんと合流し、準備体操の後出発。富田川を右に見ながら車道を歩く。左手の



石垣には「清姫の里」と大きな看板が張り付けてある。この辺りが清姫生誕の地であり、安珍と出会った場所である。暫く行くと対岸の山の中腹にけったいなものが見える。スペイン在住の音響彫刻家増田感氏制作で1997年4月、熊野古道音の径制作実行委員会と地元住民の手で設置されたものとのこと。「音の居(オトノイ)」と名付けられており、風が吹けば風鈴の様に音がするらしいが聞く事は出来なかった。



出発して約40分昼食を予定(「音の居」モニュメント)している「熊野古道館」に到着した。昼食用弁当は、中辺路に入ってから、元気のよい小母さんが配達してくれる十丈ぐる一ぶの「まえだ」の弁当で、暖かい味



(熊野古道館)

味噌汁とミカン数個が付いている古道館の屋内での食事でゆっくりと食事が出来た。食後館内を見廻ると、熊野詣の主人公、後鳥羽上皇、後白河法皇の肖像画の掛軸

あるいは熊野古道詣での様子を描いた絵巻物等が展示されている。古道館の前の土産物店の主人も語り部とか。ミカン一袋百円で買うとおまけに3~4個つけてくれた。

古道館の前が「滝尻王子」でここから中辺路の始りで、熊野三山の霊域に入ると言われている。(本日の語り部さん)五体王子の一つで歌会などが開かれその詠草が残されており、古道館に展示されていた。鎌倉室町時代の笠塔婆や宝篋印塔があり、「徳仁親王殿下御見学の地」「皇太子殿下行啓の地」の



(滝尻王子社)

2本の石柱もある。又ここを起点として500m毎に番号道標が設置されており最終の熊野本宮大社まで75番までである。



(長い上り坂が続く)

ここから長い上り坂が始まる。境内には無料貸出の杖が置いてあり借用する人も。15分位登ると「胎内(番号道標くぐり)」と称され小さな洞穴がある所に来た。くぐって上の方に

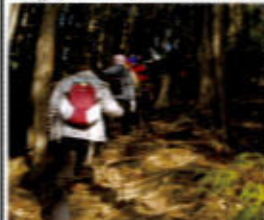
出ることが出来るのだ。

女性がここを潜れば安産するという俗諺があると、説明板にあるが、語り部さんは「生まれ変わる」と説明され、お産には関係のない参加者の多くが「胎内くぐり」挑戦、メタボの筆者は遠慮した。

そこから3分で「不寝(ネズ)王子」跡に到着。石碑と説明板があるのみ。古い記録には見られず、99王子にも数えられないことも。急坂の道で休憩するために設けられたのかと。



(不寝王子跡)



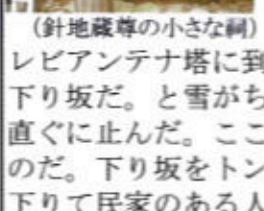
木の根が剥き出しの古道らしい雰囲気のある山道を、休み休み登って行く。約30分登り、「剣ノ山経塚跡」に到着。経筒に入れ壺に収め埋めた場所とか、盗掘され、常滑製の壺だけが古道館に展

示されていると(気付かなかったが)。やがて「飯盛山」頂上に着いた。標高340.66mからの眺望は素晴らしい。

下ったり登ったりして「針地藏尊」の小さな祠の前で、語り部さんが何か説明していたが聞き取れず。とりあえずカメラに収める。そこから又



(飯盛山頂の表示)



登るとNHKのテレビアンテナ塔に到達し、そこからは下り坂だ。と雪がちらつき始めた。が直ぐに止んだ。ここはやっぱり高地なのだ。下り坂をトントンとテンポ良く下りて民家のある人里に来るとそこは高原熊野神社だ。中辺路の古道に現存する最古の神社



(最後の上り坂)



(高原熊野神社本殿)

とか。室町時代前期の春日造りの本殿は県の指定文化財となっている。境内には大きな楠木が数本あり、いかにも古いお社という雰囲気である。

写真を撮ったり、スタンプを押したりしていたら最後になっ

てしまった。がほんの2~3分歩くと本日のゴールの「高原霧の里休憩所」に到着した。休憩所がありその前の広場からの山々の眺望は素晴らしい。(右)ここで待機していたバスに乗り、帰路に着いたのは3時半を廻っていた。



投稿大歓迎

皆様のご投稿を待っています

旅行記、随筆、自分史、短歌、俳句、川柳など
あるいは本紙に対する御意見・御感想、何でもOK

広告大歓迎

掲載料:1/10頁、1回500円

お申し込みは6回分3,000円で御願います

歩こう会1月例会

石切神社・宝山寺そして大極殿

当初ホームページでは、四国八十八か所お遍路の旅(日帰りバス旅行)を予定していたのだが、急遽変更して、阪神・近鉄1 dayチケット1,600円を利用して、石切神社・宝山寺へ出かけることにした。



(駅前に鳥居、そして参道)

1月10日阪神三宮駅に集合し、昨年開通した阪神なんば線経由奈良行き快速急行に乗車、近鉄生駒駅で乗り換えて、石切駅で下車。駅を出ると目の前に鳥居があり、参道商店街となっており、大勢の人で、これだと石切神社まで迷う事はないと安心。暫く歩くと、左手に大仏さんが見えてきた。日本で三番目石切大仏の標柱がある。でも兵庫大仏より小さい。高さ6mという事だが兵庫大仏は11mだ。昭和55年「阪本の赤マムシ」で知られている阪本昌胤氏が建立したものである。



(日本で三番目石切大仏)

参道商店街は古い屋さんが多く、またなぜか漬物屋さんも多い。「つけもの横丁」の立札がある横丁に入り、温かいワンカップ酒で一息つく。

20分ばかり歩いて石切神社に着いた。正式には、石切劔箭神社(イシキツルギヤ)という。境内は初詣の人で一杯で、お百度参りでぐるぐると廻る人が多い。



(人が一杯の石切劔箭神社)

なんでもできもの・腫れ物ひいてはガンに御利益があるとか。



山門と思しき建物(絵馬殿)には仁王さんではなく古代の神さんらしき立像があり河野さんに似ているのではと一緒にカメラに収まって頂いた。(左の写真)

おでん屋さんに入り、また一杯飲んで石切駅に向い生駒駅に戻り、生駒ケーブルで宝山寺へ。

生駒ケーブルは日本最初のケーブルカーで、大正7年8月29日に建設されたので、8月29日が「ケーブルカーの日」となっている。

宝山寺駅までは全国でも珍しい複線となっており、対向車とすれ違う所では四車線となっており壮観である。また踏切もあるのだ。



(生駒ケーブル「ブル」)

「ブル」「ミケ」と名付けられた車両が、宝山寺駅までの0.9kmを約6分で運行されている。駅を降り宝山寺に向かう参道には割烹料理店が多く、生駒旅館街もある。ここは「金剛生駒国定公園」なのだ。

駅から十分少々で宝山寺に到着した。宝山寺は真言律宗の御寺で、1678年湛海律師の中興開山。本尊は、不動明王。聖天堂に安置されている大聖歎喜自在天は「聖天さん」「生駒聖天」と呼ばれ、信仰を集めている。



滝の多い生駒山は、修験者の行場として栄えていた。背後の山には、般若窟と呼ばれる洞穴があり、役行者が行場とし、梵本の般若経を納められ、その往錫の霊域を訪ね、弘法大師もこの地で修行されたと伝えられている。

役行者がこの般若窟を、弥勒浄土の内院となぞらえて修行されたことから、弥勒菩薩像が祀られている。

般若窟の近くまで行ってみようと思えば、縄張りのある横を通り抜けて上がると、親子連れが我々より先に上がっていた。

山の上からの眺望は素晴らしかった。後でインターネットで調べていたら、般若窟への立ち入りは禁止と。

そういえば親子連れと我々以外は誰も登っていなかったなあ・・・

お山に登らなかった河野さんはすでにケーブル駅に向かったとのことで、我々も急いで駅に向かい14時丁度の車両に乗り込んだが河野さんはまだと分かり、下の駅で20分後の次の便を待つことになった。



(宝山寺と東大阪市遠望)

多少時間があるので、奈良に向い、復元中で間もなく完成する予定の「大極殿」を見に行こうということになり、生駒駅から大和西大寺駅へと移動。

平城遷都1300年祭に向けて復元中の大極殿は今年春に完成予定であり、覆いはほとんど取り払われて、その全貌を見ることが出来て、足を延ばしてやってきた甲斐があった。

帰りは鶴橋で途中下車。安徳さんお勤めの焼肉屋さん「鶴一」でホルモン焼きとビールとお酒と心ゆくまで楽しんだ。

満腹・満足の本日の参加者達(右の写真)は左から二宮慶治郎、高須美津子、河野旺生、名越英昭および安徳信義の5名でした。

